United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
浜松ユネスコ協会

UNESCO HAMAMATSU

No.176
2020.3.20

発　行：浜松ユネスコ協会
発行人：会長　小畠逞壯
TEL(053)463-0458
FAX(053)463-0458
編集(広報委員会)阿部行俊

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

第10回　私のまちのたからもの展　表彰式　1月21日(日)

100年後まで届け　未来へのメッセージ

浜松市長賞
「町の人が集まる場所」(西区佐浜町)

浜松市立湖東中学校2年　倉田　彩さん

私の住んでいる佐浜町にある貴船神社へ小学生のころ、神楽や浦安を踊りに行ったり、お宮の前にある遊具で友人と遊んだりしていました。

父たちが小さかったころ、そして、もっともっと昔から私たち町民を見守り続けてくれていました。今でも、夏祭りや秋祭りのたびに、たくさんの人が集まります。長い間、たくさんの人々を見守ってくれていたことへの感謝の気持ちと、これからも変わらずそこにあってほしいという願いを込めてこの絵を描きました。

〈要旨抜粋〉

～ 作品に込められた貴船神社 ～　貴船神社宮司　倉田安宏 氏

新聞記事を見て驚きました。地元の中学生が描いた当社の水彩画が最高賞をとるなんて名誉なことです。私も遠鉄百貨店の展示会場まで足を運び鑑賞しました。

作品は本物そっくりで、境内に差し込む光りの具合や空の空間が見事に描かれています。また、階段の苔の生え具合や社の格子も忠実に再現されていました。当神社では毎年10月の秋祭りに子供たちが神楽を奉納します。彼女も小学生のときに舞った思いや境内に付設されている遊具で友達と遊んだことが、この作品に込められているのではないでしょうか。

当社は1509年造立棟札された旧村社です。記事や作品を拡大して町内の公会堂や神社の社務所に飾ろうかと考えています。

今後も若い人たちに地域の文化や自然を大切に守っていただけることを願います。

～ 先人の魂を読み取ることが　みなさんの使命 ～

浜松ユネスコ協会会長　小畠逞壯 氏

ユネスコとは75年前の悲惨な第二次世界大戦の反省にたって生まれた国際連合の機関です。そこで戦争を無くす為には、教育や科学や文化を通して平和な世界を作っていくことを誓ったのです。この展覧会は、その活動の一環です。

さて、皆さんの作品はいずれ劣らぬすばらしいものでした。皆さんが心を込めて描いてくれた絵やコメントにも胸を打たれました。皆さんの100年後まで残したい作品には、未来へのメッセージが沢山ありました。自然の大切さ、お祭の楽しさ、神社の荘厳さ、そして戦死した方々の石碑の虚しさ。そこには、何百年という長い先人の苦労や知恵、そして教訓が詰まっています。その先人の魂を読み取ることが、これから生きる皆さんの使命であると思います。

未だに戦争と貧困の渦巻く世界。さらに激しくなる台風や地震による自然災害の恐ろしさ、それを乗り越えるためにも先人の知恵と未来を生きる新しい想像力が必要なのです。皆さんは私たちの希望です。どうぞこれからも、大いに学んで、平和で住みよい国や町を作ってください。

〈要旨抜粋〉

～ 地域の振興やまちづくりへつながる　たからもの ～

浜松市副市長　鈴木伸之 氏

浜松市長賞の二つの作品を見て、私は相通じるものがありました。私が生まれ育った文丘町は、以前、名残町という町名でした。その一角である現在の布橋に、三社神社（浜松北高東隣）があります。その神社の境内で幼稚園、小学校時代に遊んだことを思い出しました。また、私が追分小学校時代、川根小学校と文通で始まった交流事業に参加したことも思い出があります。この両作品は、私にとっても親しみ深いものでした。

自分が生活する地域で、自分のたからものを見つけ、守り育てていくことは、今の世の中で極めて大事なことと思います。地域の振興や町作りに役立っていくことと思います。〈要旨抜粋〉

～ 地域を愛する感性を大切 ～

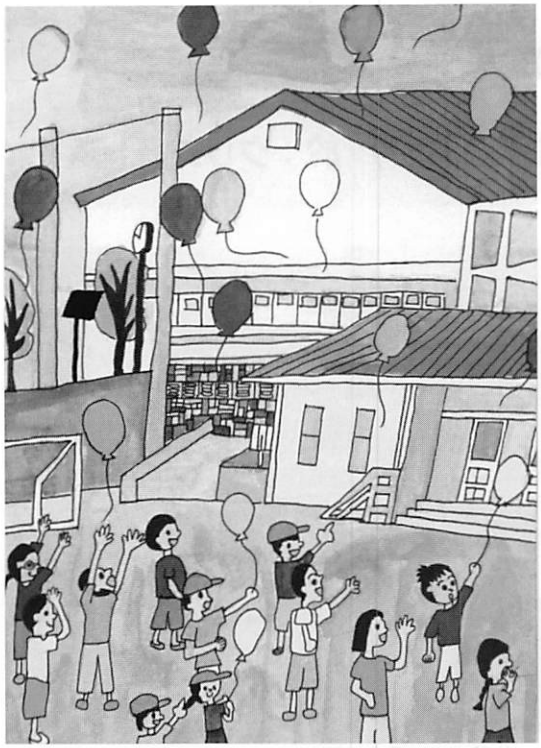
浜松市教育長　花井和徳 氏

作品に添えられたコメントが素晴らしいと思いました。たからものに選んだ理由がよく分かりました。「愛すべき・お気に入り・大好きな・大切な・守り伝えたい・残したい・いつまでも続け」という言葉から、みなさんの思いが強く伝わってきました。

これらのたからものが、100年続くためにはどうしたらいいのでしょう。今はできないけれど、成長したらできることもたくさんあります。このようなみなさんの感性を大事に育んでほしいと思います。浜松が好きになり、いつまでも浜松を大切にしていただきたいと思います。〈要旨抜粋〉

内科·消化器科
西 脇 医 院　院長　西脇雅子
中区和合町176-58　☎〈053〉412-5355

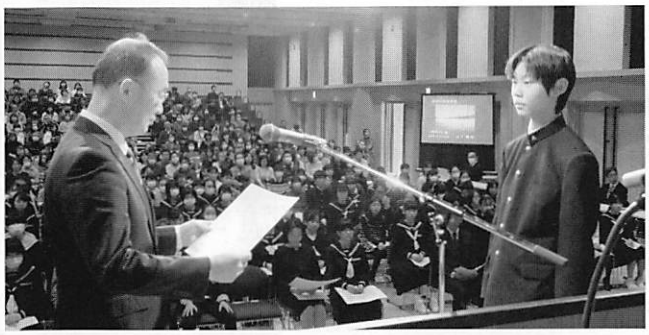
西遠は「未来を拓く女性」を育てます。
伝統の中高一貫教育／地域唯一の女子教育／新しい課題探究型学習
入学相談は随時受け付けております。
パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気を是非御覧ください。
静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校
TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp



浜松市長賞「いつまでも続け風船の絆」

浜松市立積志小6年　松田実桜さん

昭和36年に福井県武生東小の児童が手紙つきの風船をとばしたところ、アルプスを越えて積志小にたどりついたことがきっかけで交流が始まりました。3年生から文通を始め、5年生の交流会で出会うことができます。この風船がつないだ絆を自分の子供や孫までつないでいってほしいと思います。



静岡県教育長賞の表彰

県教育委員会社会教育課長　山下英作 氏(左)
浜松市立佐鳴台中学校2年　山下健翔さん(右)

講評　「共感すること、共有すること」が世界の平和へ

浜松市立都田中学校 美術主任　平賀卓也 氏

作品が光るのは、作品を鑑賞する心に留まるときです。作品を通して心の記憶が呼び覚まされるような作品と出会うとき、その作品は輝きを放ちます。「懐かしい。自分もこの風景を見たことがある。この場所にいたことがあるような気がする。」このような共感が大切だと思います。本年度は、小学生の作品にこのような作品が多くてうれしく思います。

〈浜松市長賞〉「いつまでも続け風船の絆」 浜松市立積志小学校6年　松田実桜さん

空に舞い上がっていく風船が生き生きと描かれていました。そこには、交流する人たちの温かな心が込められているように感じました。

〈浜松市教育長賞〉「夕焼けを背景にアクトタワーの見える風景」

浜松市立東陽中学校2年　西山紅由妃さん

住宅の屋根の上に見えるアクトタワー。夕焼けを背景に、その美しい姿に一瞬立ち止まり、しばし時間を忘れる。日が沈んでいくまでの時間。だれもが共感できる作品だと思いました。

〈佳作〉「城の存在」 浜松市立浜北北部中学校3年　和田雛莉さん

3年間写生大会で描き続けてきた浜松城公園。その時間は、わたしを成長させてくれた。その感謝の思いで優しく微笑む作者の顔が浮かんで来るようでした。そして、浜松城も作者に向かって微笑んでいる。そんな印象をいだきました。

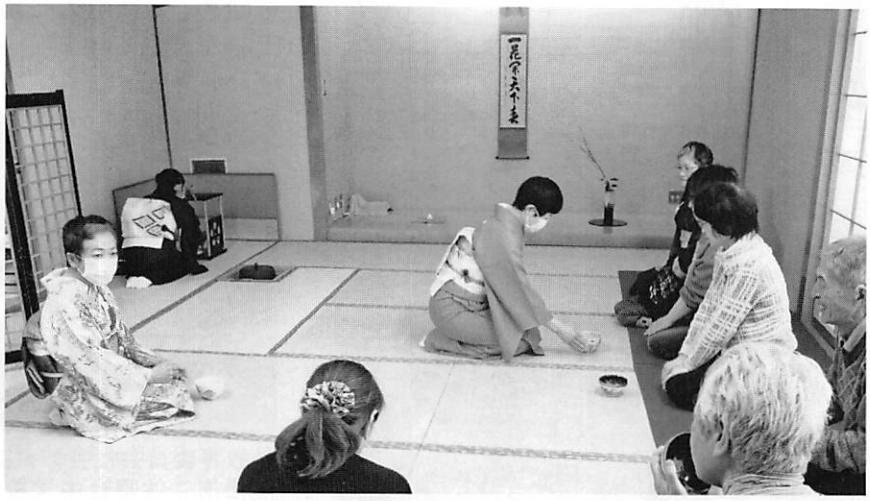
心の目を大切にして、様々な体験や経験から学んでください。そして、「思いを共感すること」「思いを共有すること」を大切にしてください。このことは、ゆくゆくは世界の平和にもつながると思います。〈要旨抜粋〉

印刷のエキスパート
株式会社開明堂
TEL〈053〉471-6231(代)　FAX 473-0778

遠州鉄道グループ
ホテルコンコルド浜松

第10回グローバルフェア　お茶会
『一期一会』を大切に！ 2月9日(日) 於：クリエート浜松

はままつグローバルフェアが開催され、浜松ユネスコ協会は、日本文化の紹介を目的にお茶席を設けました。一碗のお茶を通して、日本文化の美しさや奥深さ、おもてなしの心を感じ取っていただけたと思います。



席主：水谷ひで 氏(宋徧流)

床には、「一花開天下春」の軸が掛けられ、朝鮮唐津の花入れには、伊予水木（いよみずき：マンサク科）に数寄屋侘助（すきやわびすけ：ツバキ）のピンク色を添えました。

また、梅をあしらった小袖棚を用いて、立春の季節感を表現しました。ふるまったお茶名は、「萩の白」（山田園）、お菓子は、「初菜種」（ご製菓…花鼓）でお客様の舌を楽しませました。

ペルー、マレーシア、ベトナム等の外国の方も席入りし、席主の丁寧な説明で安心してお茶を味わっていました。小さなお子様も「お茶室でお茶を体験したい。」と席入りしました。「幼稚園でやったことがある。」と興味深そうでした。また、席主からのお茶の頂き方や作法の順、道具についての説明を興味深く聞き入っていました。（大石幹子）

第7回科学教室　「神秘な星の世界をのぞこう」
～ 興味津々　たくさんの発見 ～
12月7・8日(土・日)　於：かわな野外活動センター

天候の回復を待ちましたが、雲がなかなか途切れることはありませんでした。しかし、星が顔を覗かせるのを待つ間、子供たちは天体に関する話をたくさん聞くことができました。興味津々に天体の話に耳を傾け、「そんなこと初めて知った。」「今度、晴れているときに探してみよう。」と今後に生かそうとする言葉がいたる所から聞こえてきました。

翌日は、冬の自然を観察しました。葉が落ちた冬だからこそ見付かるものがあります。クヌギの落ち葉の中に、緑色のウスタビガの繭を見付けました。キハダの葉柄がとれた痕はピエロに、クルミはヒツジに見えます。冬ならではの自然をたくさん見付けることができました。かわなの自然を心と体で存分に感じ、感動をたくさん味わうことができました。（疋田貴嗣）

第8回科学教室　「ラジオを作ろう」
～ 新たな疑問が生まれたラジオ作り ～
1月25日(土)　於：浜松科学館

スタッフが作ったラジオの音を聞かせると、子供たちは「いいなあ。」「早く作りたい。」と、興味津々でした。作るときに使ったはんだごては、電気を熱に変えて利用する道具です。そして、ラジオは電気を音に変えて利用するものです。5年生が多かったですが、6年で習う電気の性質とその利用方法にも少し触れました。

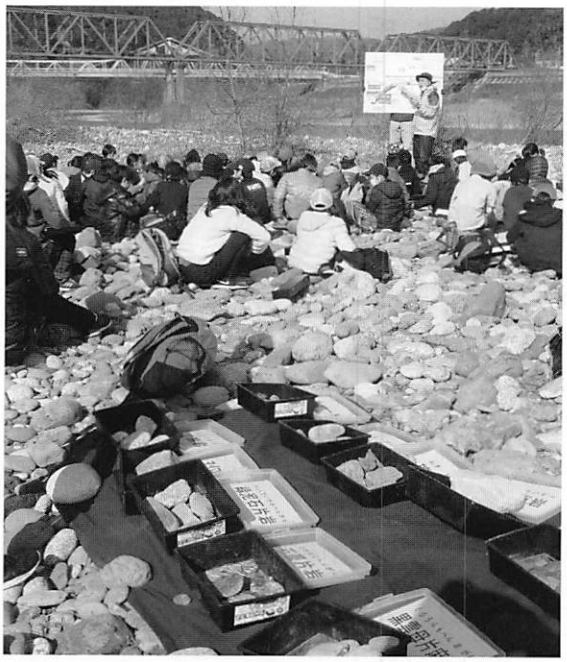
製作作業も終盤に差し掛かったころ、ある子が「なんで、これで音が出るのだろう？」とつぶやきました。「調べてみようよ。」と、一緒にいた子が答えました。この「なんで？」「どうして？」こそ、科学教室の、ひいては学びの質を高めるために最も重要な要素の一つです。これからもその心をもち続けていってほしいです。（伊熊芳基）

第5回科学教室　「天竜川と岩石」
～ 日本列島の歴史が詰まった10種類 ～
2月8日(土)　於：天竜川河川敷(西鹿島)

今年度は、当初予定していた10月に台風19号が来た影響で、初めて2月の開催となりました。

今年の教室生は、全員1年目ということで、10種類を集めました。10種類の内訳は、堆積岩5、火成岩1、変成岩4です。

天竜川の堆積岩は、海洋プレート上の海底に堆積した岩石が、大陸プレートの下に潜り込むときに、大陸プレートに押し付けられ（付加され）、山地・山脈を形成したものです。地図上では、同じ時代に堆積してできた岩石が、四国の方まで帯状に分布し、「秩父帯」、「四万十帯」と呼ばれています。そこを天竜川が流れ下ってくるため、チャート、石灰岩、礫岩、砂岩、頁岩といった違う時代の堆積岩が採集できるのです。



また、地下深く長野県辺りまで潜り込んだ海洋プレートがマグマとなり、それが上昇し冷えてできた火成岩の分布する地域は、浜松市最北部の水窪の地名をとり「領家帯」と呼ばれています。今回はそこを代表する花崗岩を採集しました。

さらに、堆積岩の「秩父帯」「四万十帯」と火成岩の「領家帯」の間には、「中央構造線」という大断層があり、変成岩も豊富です。科学教室では、黒雲母片麻岩、石墨片岩、緑泥石片岩、マイロナイトを採集しました。科学教室で集めた岩石は、天竜川流域の地質の歴史の詰まった10種類です。（竹内孝夫）

第9回科学教室「記念樹を植えよう」

幼いころから「どんぐり」として親しんできた木の実は樹木の種子です。生きています。秋の佐鳴湖公園でも、たくさんの木の実を採集し、分類も体験しました。

今回は、多種の木の実と発芽の様子を学びました。その後、スタッフが収集した約30種からお気入りの木の実を選び、植木鉢に植えました。これからの子供たちと記念樹の成長が楽しみです。

2019年度　浜松ユネスコ協会科学教室　閉講式

2月22日(土)　於：浜松科学館

～ 新たな疑問や感動は　世界平和へつながる ～

浜松市　創造都市･文化振興課　生涯学習担当課長　藤田健次 氏

124名の皆さんが修了証書を授与される姿をみて、9回の活動を通して得た充実感を感じます。佐鳴湖や天竜川、富士山、かわな野外活動センターなど、フィールドへ出掛けての活動もありました。科学することを通した体験で、新たな疑問や感動が生まれたと思います。それは、ユネスコの理念である世界の平和へ繋がると思います。〈要旨抜粋〉

～ 人とのつながりを大切にして　よりよい自分作り ～

浜松ユネスコ協会副会長　安藤隆敏 氏

リチウムイオン電池を発明し、ノーベル賞を受賞した吉野彰さんについて話します。電池が発明されて200年です。もし、乾電池しかなかったら使い切った乾電池はゴミとして埋め尽くしてしまいます。しかも、危険であるため集め方も注意が必要です。よく言われる持続可能な社会とは全く逆になってしまいます。効率的に充電できるというのは時代に求められる科学技術です。

今回3名の科学者が同時に受賞しました。電池の中身である電解液にリチウムイオンを応用したのはアメリカのスタンリー博士です。次に、プラス極を開発したのはアメリカのジョン博士です。そして、マイナス極を開発したのが吉野さんです。3人の協力で新しい電池が出来上がったのです。

科学研究というと個人的と思われがちですが、科学する人のつながりが大きな成果を生んでいたことが分かります。

修了証書にかかれている科学する人の心構えを大切に考え、今後の生活の中でも益々発揮してください。そして人とのつながりを大切にしてよりよい自分作りを進めてほしいと願います。

〈要旨抜粋〉

浜松ユネスコ山本自然科学賞　授与式

2月1日(土) 於：ホテルコンコルド浜松

山本自然科学賞は、1999年5月に会員の山本正俊さん（故）、和子さん夫妻からの寄付を基金に創設されました。今回が21回目となり、奨励賞52点・正賞48点が受賞しています。「学ぶ楽しさや充実感を実感できているか。」を基準に選考しています。

～ 子供たちを育てる　愛情と使命感 ～

浜松ユネスコ協会会長　小畠逞壯 氏

日本の若者は育っているだろうかと不安を感じています。OECD（経済協力開発機構）の子供たちの学力に関する調査データを見ると日本の結果は低くなっています。これほど立派な子供たちであるのに、他国と比較して低下しているのです。学校教育は国の根幹です。国家百年の計は教育です。わたしたちユネスコ協会は微々たるものですが、なんとかして子供たちを育てたいという愛情と使命感をもっています。

100年後の日本の人口に関する内閣府の資料があります。現在の日本に人口は約1億2000万人ですが、100年後は4300万人以下と予想されています。そして、その多くが高齢者です。そのような国が豊かになれるでしょうか。浜松でも消滅していく地域が出てくると思います。予想されているのに、その対策が進んでいません。老婆心ながら、子供たちを大切にしていかなければならないと思っています。〈要旨抜粋〉

～ 自然科学への執着心と柔軟な姿勢 ～

浜松市教育長　花井和徳 氏

受賞された研究には積み重ねがあります。この積み重ねが正賞受賞につながったと思います。この度の受賞を励みとして、更に研究を深めたり、実践の成果を糧として新たな課題へと挑戦したりしていただきたいと思います。

昨年、リチウムイオン電池の開発でノーベル科学賞を受賞した吉野彰さんは、次のように述べています。研究者が必要とする資質は、最後まで諦めない執着心と大きな壁にぶつかったとき「まあ、なんとかなる」と思う柔らかさが重要だ。「得意な科目」と「広い関心を持ち続ける」の2つが揃うと、だれも考えつかない独創的なアイデアが生まれる。手つかずの宝物は、世の中にまだまだ残っている。

みなさんも、何事にもこだわらない柔軟な姿勢で自然科学に対する興味関心をじっくりと大きく育てていただきたいと思います。〈要旨抜粋〉

第21回　正賞受賞者の紹介

前列左:比留間さん　右:三宅さん

〈小学生の部〉「よく飛ぶ紙飛行機 Ⅵ」

浜松市立広沢小学校6年　三宅遼空さん

「よく飛ぶ飛行機」を求めて1年生からの継続研究です。翼の形、プロペラ、翼の表面の凹凸模様、翼の断面等、年度ごとに研究を進めています。

バイオミメティクス（生物模倣）の観点から、鳥や昆虫の翼の凹凸模様や断面の形状が「抗力」や「揚力」に差を生み、飛ぶ力に影響していることを実証しています。

〈中学生の部〉「カイコ飼料の研究 2」

静岡県立浜松西高等学校中等部1年　比留間夏帆さん

昨年度の研究から、自作した飼料で育てた繭がなぜクワの葉を食した繭より小さいか、その改善方法を求めての研究です。飼育飼料の自作、飼育方法、幼虫の測定、幼虫や繭の観察も見事です。考察は、自作飼料にはクワの葉の量や水分量が大切であることや生き物の飼育の難しさまでに及んでいます。

2020年 新春の集い

2月1日(土) 於：ホテルコンコルド浜松

衆議院議員 塩谷立 氏(代理:青島大 氏)

浜松ユネスコ協会は、長きに渡り数々の実績を残されました。その中でも科学教室を通じて、多くの子供たちに科学する心の火を灯し続け、ユネスコ協会の主意である平和への思いや故郷や国の誇りになるものを大切にする心を育まれました。関係者への敬意を表します。〈塩谷氏からのメッセージより一部抜粋〉

岡本肇氏（浜松ユネスコ協会顧問）の乾杯で懇親会が始まりました。本年度の活動でのエピソードが話題となり、笑い声も大きくなっていました。また、来年度の活動へつなぐ意見や情報の交換も行われていました。会員の親睦を深めることができました。

第4回親子公園探検隊　冬の自然 in 佐鳴湖公園

～湖畔の鳥たちから　多く感動～

講師：浜松野鳥の会　西村幸近 氏　　1月30日(日) 於：佐鳴湖公園

モクレンの枝先には毛に包まれた冬芽が少しずつ膨らみ始めています。梅の花は、例年よりも早く咲き誇っています。そんな中、ツバキやサザンカのつやつやした硬い葉の間を動くメジロを発見しました。ハゼノキには黒ネクタイのシジュウカラが集まってきました。里山にいる鳥の可愛らしさに親子で感激しました。

佐鳴湖の湖畔ではハラビロカマキリやオオカマキリの卵嚢、池ではニホンアカガエルの卵塊を確認しました。湖水には、マガモやカルガモのつがい、カンムリカイツブリの群れが泳いでいました。そのカイツブリが餌を採るために潜水する様子も分かりました。西村さんが、佐鳴湖の食物連鎖の頂点にいるミサゴが、魚を食べている様子をフィールドスコープに捉えて下さいました。鋭い脚の爪やくちばしの格好良さを親子で共有しました。

最後は渓流の宝石と呼ばれるカワセミの観察です。フィールドスコープをのぞくと、背中の美しい水色が鮮やかに輝き、光の当たり方によっては緑色にも見えました。そして、枝の上から水中に飛び込んで小魚をくちばしでとらえる様子も観察できました。（鳥井みのり）

あなたも一緒に

会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局　三輪宜弘
■ 053-425-8643

会員動向　会員数（2020.1.14現在）

賛助	法人	維持	理事
29	1	6	41
普通	学生	合計	
43	0	120	

※再生紙を使用しています。